

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [海星学院高等学校] 担当教諭名 [山根 洋・市川 栄作] (1-2年 14名)
 相手国・地域 [メキシコ]
 海外学校名 [Universidad Veracruzana] 担当教諭名 [黒崎 充]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	クラブ活動	アートマイルプロジェクト	31

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	未来の調和のために
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	未来は確実ではないが、未来の調和のために皆が一丸となって行動すれば、私たちは何でもやり遂げることができる。明るい未来を築くことができる。メキシコ人の女の子と日本人の男の子の成長と絆の深まりを軸に SDGs 達成を描いた。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
今年度は、両国の教員で例年以上に綿密な打ち合わせを行った上で、参加生徒の人数を絞り、実施した。最初のスカイプ交流を除いて、あらゆる場面の計画、運営を生徒が担い、振り返りを行ったので、生徒は資質・能力を育み、活動を常にブラッシュアップしながら、進めることができた。	特になし

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
今年度の両国の調べ学習の対象は SDGs であった。プロジェクトを進めると、各目標における両国が抱える課題や参加者のスタンスの共通点と相違点が明らかになった。それらについて対話することで、相手への興味関心は例年以上の質的な深まりをみせた。また、交流を重ねて、相手と臆せずコミュニケーションをとれるようになり、信頼関係を築くことができた。	相手校との交流は 3 年目であり、今年度も良好な関係を深めることができた。プロジェクトを通じて、生徒の主体性を尊重する教育活動の進め方への理解が深まり、新学習指導要領や総合的な探究の時間に関する研究が進んだ。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 7月 8月 9月	・(教員)メール交流開始・スカイプ テスト・年間計画作成 ・壁画発送 ・出会い(スカイプ) ・出会い(フォーラム)	自己紹介写真とメッセージカードを壁画に同封し、発送することができた。 初めてのスカイプを振り返り、できたこと、できなかったことを日本側で共有した他、できなかった部分についてフォーラムを介して自発的に補うなどプロジェクトへの当事者意識が芽生えた。	部活動
共有 テーマ学習	9月	・調べ学習(スカイプ)	3 グループに分かれ、SDGsについての個人の調べ学習の成果を共有し、各グループが「どういう未来を目指すか」についてスカイプ中にプレゼンし、練習以上の発表ができた。また、質問に対しても的確な合意形成のプロセスを経て、速やかに応答した。	部活動
融合 メッセージ作成	11月	・下絵・構図会議(スカイプ) ・構図ブラッシュアップ (メール・フォーラム)	相手側下絵についてスカイプ前に日本側で検討会を行い、スカイプでは共有を踏まえた建設的な提案ができた。	部活動
創造 壁画制作	12月 1月 2月	・相手校制作 ・壁画到着 ・日本側制作	生徒が制作計画を立案し、運営した。 期日までに壁画を完成させた。	部活動
評価 振り返り 自己評価	3月	・合同鑑賞会(スカイプ)	プロジェクトの振り返りと壁画の感想を伝え合い、相手と達成感を共有した。	部活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	相手側の視点に立って日本の文化や自分の生活を紹介する発表を心がけ、それらを客観的に振り返る姿勢が見られた。
異文化を理解する力	5	一般的な異文化の理解のみならず、SDGsに関する調べ学習の発表を通じて、双方の社会状況と認識の違いの関連性に気づくことができた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	調べ学習を進める中で、一つの社会問題がSDGsの複数の目標に関連していることに気づき、これを踏まえた発表を行うことができた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	5	初期のスカイプ交流で、自分達のリアクションが不十分であったことに気づいたのを契機に改善に取り組み、相手の質問に対して的確な合意形成のプロセスを経て、速やかに応答することができるようになった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	双方の調べ学習の発表を踏まえて、下絵を批判的に鑑賞し、建設的な提案をすることができた。
主体的に考え行動する力	5	置かれた状況を踏まえ、運営方法について活発に議論ができた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	相手校との交流や、調べ学習及びその成果の発表などでは、十分に協働することができた。壁画作成では、個人差が見られた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	限られた時間の中で壁画作成を進めたが、先にクオリティーの高い絵を描いた相手側の思いに、必死に応えようとする姿勢が見られた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	相手の立場に立って、作品鑑賞を行い、スカイプを通じてしっかりと感想(評価)を伝え合うことができた。